

トランスロン（宇高義友社長、横浜市港北区）は、ネットワーク型のデジタルタコグラフとSaaS（サーブ）型運行支援サービスを提供している。導入・運用時の手間が少なく、低コストでリアルタイム管理が可能で、大手・中堅に加え中小運送会社への普及も図っていく。

新型車載器は「車載ステーション DTS-01」。FOMA網の通信モジュールを標準装備し、カードレスを実現。運行管理に必要なデータを事務所側に自動送信するため、帰庫を待たずに1日の運行を把握できる。「荷積み」「待機」「荷下ろし」「休憩」



新型車載器を手
に田中担当部長

低価格で手厚いサポート

通信型デジタルタコ SaaSを利用

読み上げる音声ガイダンス機能も備えている。

取得したデータは、車載器から富士通のネットワークサービスを利用した通信回線を通じて、クラウドコンピューティングで構築されたセンタ

ールが不要でアプリケーションの更新も自動で行われるため、導入・運用の手間を大幅に省ける。

といった作業状態を入力するボタンと表示画面を本体に内蔵しており、従来の操作パッドも不要。速度オーバー、急加減速などの違反や荷室の温度異常の音声警告装置、事務所側で入力したメッセージを

ーに送られる。運送会社はインターネットにつながるパソコンを用意するだけで運用を始められる。

SaaSを使うことでコストを抑え、サービスの低価格化を実現。ソフトのインスト

「通信費込みで手厚いサポートも付いた『オールインワン』のサービス。今後、労務管理アプリケーションなども拡充していく」と意欲をみせる。

トランスロン